

I 実践

1 研究主題

「自他の良さを認め合える生徒の育成」
～いじめ撲滅のための取組を通して～

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「自らを高め、力のある人間となれー自ら学び、自らを律し、自らを鍛えるー」である。生徒一人一人がそれぞれの目標に向かって主体的に取り組み、互いに支え合い、認め合い、尊重し合える集団を形成できるような取組を行っている。しかし、本校の QU アンケートの結果から、各学級に自己肯定感や自己存在感の低い生徒がおり、自分の大切さや他の人の大切さを認められるような環境づくりや働きかけを実態に合わせて整えていく必要がある。また、相手を傷つけたり、自分を貶したりするような言動をする生徒も見られる。文部科学省の調査においても、いじめの内容として最も多いのが「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、自他を大切にする実践的な態度を養うことも必要であることが分かる。そこで、いじめ撲滅を目指した様々な取組を通して、自他の良さを実感し、大切にすることができる生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア いじめの実態把握のためのアンケートの実施

(ア) いじめアンケートの実施

(イ) QU アンケートの実施

イ いじめ防止フォーラムの開催

2 実践内容

ア 実態把握のためのアンケートの実施

(ア) いじめアンケートの実施

本校では、いじめの実態把握をするため、毎月いじめアンケートを実施している。アンケートの目的は生徒のいじめの実態把握ではあるが、自由記述欄や相談の有無の確認を通して生徒一人一人の思いや悩みも確認することができる。そこで分かったことを、一人一人を理解し、尊重することにつなげることができた。

(イ) QU アンケートの実施

本校では全学年で QU アンケートを実施している。QU アンケートの結果をもとに学級内の生徒の立場を分析し、生徒一人一人への支援に生かすことができた。また、学級担任だけではなく、生徒指導部員会を中心に学年全員で共通理解を図り、指導に生かしている。

イ いじめ撲滅フォーラムの開催

「いじめ撲滅フォーラム」を、生徒会を中心に実施した。今年度は、教育系 YouTuber の葉一氏を講師に招き、いじめについて考えるための講演会を行った。講演や質疑を通し、生徒たちがそれぞれいじめ問題について深く考える貴重な機会となった。

いじめに関するアンケート

(12枚)

いじめは人間として絶対に許されないことです。先生だとかお友達の方でいじめを許さない意識づくりを進めるために、次の質問にお答えはるのを望みます。○をつけてください。
他の人が書いた内容を読み取り、他の人に読ばれたりしないよう、正しく書いてください。

() 年 () 組 (男 ・ 女) 氏名 ()

＜次の質問に付して、当てはまる記号に○をつけてください＞
(前回のいじめアンケートへ変更済み)

●質問1 私は学校に来るのが楽しみです。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問2 私は冷やかされたり、からかわれたりしている。おどされたり、悪口や嫌なことを言われたりしている。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問3 私は仲間はずれにされたり、集団で無視されたりしている。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問4 私は軽くぶつかわれたり、遊ぶふりをしてたふられたり、けられたりしている。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問5 私は最近お金や持ち物を取られたことがある。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問6 私は最近お金や持ち物をかくされたり、盗まれたりしている。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問7 私は最近嫌なことや恥ずかしいことをさせられたことがある。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問8 私は最近スマホなどのSNSに、悪口や嫌なことを書かれたことがある。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問9 私は最近いじめられている人を見たことがある。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問10 私は最近いじめをしたことがある。
ア あてはまる イ あてはまらない

●質問11 私は泉丘中にはいじめがあると思う。
ア はい イ いいえ

＜そのほかの記述＞

●質問12 先生と相談してみたいことがありますか。(学校生活、学習、部活動、家庭のことなど何でもOKです。)

ア はい イ いいえ

〈資料〉 いじめアンケート用紙



〈写真〉 いじめ撲滅フォーラムの様子

3 成果

例年に比べて行事を通じた他者との交流の機会は少なくなりましたが、その中でできる活動を通して、生徒たちが自他を大切にするための施策を工夫することができた。生徒たちはいじめについて真剣に考えたり、何気ない言動が相手や自分を傷つけてしまうことがあることに気づいたりすることができた。また、教師も生徒の実態を知ることによってそれぞれの生徒に対しての働きかけを具体的に考え、自他を大切にしようとする気持ちを育むことができた。

II 今後の課題

道徳教育の充実を図るなどして、お互いに思いやりのある行動ができるような指導を普段から行っていく。また、人権コーナーの充実を図り、生徒の人権意識を高めてきたい。